

昭島礼拝 2020/5/3

聖書：エペソ 1:7-12

主題：神様の恵みの計画

賛美：

みなさん、おはようございます。今日もみなさんと共に礼拝できますことを感謝いたします。今、私たちは新型コロナウイルスの影響で、一つの会堂に集まる事ができません。電話したり、メールしたりしながら、なんとか皆さんとの交わりをもっております。神様はキリストにあって私たちを一つとしてくださいましたが、そのキリストの一つのからだからこれからも保たれていきますように、みなさんと励まし合いながら歩んでまいりましょう。そして、今、苦しんでおられる方々の上に神様の助けがありますように、お祈りしたいと思います。医療関係の方々も本当に捨て身の覚悟で従事しておられます。どうか神様の御助けがありますように。

先週からエペソ人への手紙のシリーズに入りました。今日はエペソの1章を見ていきたいと思います。神様はイエス・キリストの十字架と復活によって、私たちに救いを与えて下さいました。この救いは全ての人に与えられているものです。神様は、イエス様を救い主と信じる人にはだれにでも、この救いを与えて下さいます。この救いは神様から私たちへの贈り物なのです。エペソ人への手紙を書いたのはパウロですが、パウロも手紙の中で、これは神様からの祝福であり、奥義であると書いています。奥義という言葉は私たちもなかなか使わないかもしれませんが。とっても特別な響きに聞こえます。そうです。神様からの救いは、とっても特別なものです。そしてパウロは聖書を調べていくうちに神様が与えて下さる救いが、とても奥深く、まさしく奥義と呼ぶにふさわし

いほどの祝福の贈り物であると知りました。そしてその奥義を多くの人に伝えようと手紙を書いたのです。エペソ人への手紙を読むと、パウロが子の奥義についてとても順序良く説明してくれています。これからその神様の奥義を皆さんと一緒に味わってまいりたいと思います。そしてこれはただ論理として美しいものというだけではなく、実際に神様が私たちの生活に与えて下さる救いです。どうか私たちは聖書から共にこの奥義を読み解き、神様からの救いを共に受け取ってまいりたいと思います。

エペソ人への手紙の1:1-2は挨拶の言葉になっています。パウロからエペソの教会の方々へとあり、そして祝福とお祈りの言葉があります。1:3から手紙の本題に入っていきますが、パウロは救いについて、どのような言葉を用いているのでしょうか。特徴的な言葉はまず、この救いは神様がずっと前から計画されていたという事です。「神は、みこころの良しとするところに従って(5)」、「みこころの奥義(9)」、「時が満ちて計画が実行に移され(10)」、「すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい(11)」と書かれています。この救いは神様がずっと以前から計画されていたものなのです。1:4には「世界の基が据えられる前から」と書いてあります。神様の救いは私たちが生まれる前から、そして世界が造られる前から神様が計画されていた事なのです。ということは、神様の救いというのは単に私たちが過去に犯してしまった罪の赦しという事だけではないという事になります。罪の赦しも確かに神様からの救いに含まれています。1:7にははっきりと書かれています。しかし神様の計画はそこで終わりではありません。神様は私たちが罪を犯すか犯さないかという事よりもずっと前から、私たちを神様の計画に組み込んでいました。

その計画というのが、今日皆さんと共に見たいことです。その計画とは、1:10-11に書かれています。「時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることで

す。 11 またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめどのように定められていたのです。」神様の計画は、キリストにあってすべての者が一つにされるという事です。神様は世界の基のすえられる前から、私たちを選び、キリストにあって一つにしようとされていました。むしろすべての者をキリストにあって一つとするために、世界を創られたと言っても良いでしょう。コロサイ人への手紙 1 章にも同じようなことが書かれています。1:16 だけ読みたいと思います。「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。」世界は御子のために造られたと書いています。エペソでは、この神様の計画が世界の始まる前からあったとだけ書かれていましたが、コロサイではもっと突っ込んで話していて、そもそもこの世界はキリストのために造られたとまで書いています。神様は初めからこの世界を、キリストにあって一つにし、神様の愛によって平和が保たれ、祝福に溢れた世界にしようと計画されていたのです。

このことから、神様の救いというのは、私個人が過去に罪を犯してしまって、その罪の刑罰を神様が身代わりに引き受けて下さったということ以上の物であることが分かります。そもそもの話、なぜキリストが私たちの罪の刑罰を身代わりに引き受けて下さったのか、それは神様の計画はキリストにあって私たちを一つとするためでした。私たちが罪あるままでは、一つになることはできません。罪の心を抱えたままでは、神様の愛によって互いに平和を保つことはできません。ですから私たちの罪を洗い、清めるため、キリストは十字架と復活の贖いのわざを成し遂げて下さったのです。神様の救いの計画は、それほどに奥深い、壮大な計画なのです。パウロがこの計画を奥義と呼んでいることも頷けるのではないかと思います。

みなさんはこう考えたことは無いでしょうか。「神様なら、私たちの罪を赦すためにイエス様を十字架に架ける必要はないのではないだろうか。神様なんだから、天の上から私たちに向かってただ罪を赦したと宣言すればいいだけではないか。」もしかしたら私が素直でないので、そう考えるだけかもしれません。しかしそのように考えると、神様は私たちの罪を何かとても数学的に扱っているというか、「これだけのマイナスがあったので、これだけ足せば、はい。帳消し。」というように感じます。しかし神様の計画は、私の過去の罪をどう帳消しにするかという事以上の物なのです。私の過去の罪が帳消しにされたところで、私は再び罪を犯すでしょう。それくらい私は弱い人間です。神様はこの弱い私を、キリストにあって一つとし、すべての者と神様の愛によって平和を保てるようにしなければなりません。ですから神様は、神様の愛とはいかなるものかを人々に教える必要がありました。イエス様の十字架と復活は他の人のために犠牲となるという犠牲愛、神様の愛を表しています。同時に、人の罪がいかに恐ろしいものであるか、表しています。そして私の罪がちゃんと十字架と共に死んで、神様のいのちによって復活する必要があります。いつまでも私が罪の心を抱えたままでは、ちゃんと私も一度死んで、キリストと共に神様のいのちに復活し、帰られる必要があるのです。そのためには、イエス様の十字架と復活が必要です。私たちはキリストの十字架と復活によって、罪赦され、神様と和解し、人々との平和を保てるように造りかえられる必要があります。そうして、神様の御業が私の内になされ、すべての者がキリストにあって一つとされるのです。真の平和、神様の計画はこうして実現します。

神様はこの奥義を一人でも多くの人に受け取って欲しいと願っています。すべての者がキリストにあって一つとされることを願っておられます。この救いは神様から無償で与えられているのです。神様からの恵みなのです。なにかをしたからではなく、ただで与えられています。ですから私たちはこの救いを感じ

謝して受け取りたいと思います。感謝して受け取り、神様を褒めたたえたいと思います。今、新型コロナウイルスの影響で、私たちは会堂に集まる事ができませんが、キリストにあって一つとされているのです。ですから場所は離れていても、キリストにあって繋がっています。新型コロナウイルスの影響で集まるのが難しくても、インターネットや SNS などで会話したりしましょうと政府も呼び掛けています。それらの技術が発達したことは本当に感謝です。これらの技術によって、私たちは自宅で待機している時にも、孤独にならずに済みます。先月、イースターを迎えました。その時たまたま、アメリカの私たちの友人の facebook の投稿を見ました。アメリカでも自宅で待機するようという命令が出ていて、教会に集まって礼拝できません。そこで、私たちの友人の牧師も、教会で「せっかくのイースターだから、家族みんなで撮った写真を送って下さい。イースターのお祝いだからドレスアップして写真を撮ってください。礼拝のライブ配信の時に写真を流したいと思います」と呼び掛けていました。その友人は、facebook で自分の教会のみなさんというつもりで呼び掛けていたと思います。そのメッセージを私がたまたま見ました。そこで日本にいて、いつもは違う教会に通っているけれども、何か励ましになるのではないかと思って、私たちの写真を送りました。日本語と英語でイースターおめでとうの文字を書いて、それを私と妻が手に持って、写真に撮って送りました。するとその友人からメッセージが届きました。「とっても素敵な贈り物を本当にありがとうございます。」ととてもうれしそうなメッセージでした。ビックリマークが 10 個くらいついてました。それくらい、予想して無かったことで、うれしかったんだと思います。私たちもそのメッセージを見て、「ああ。送って良かったな。」と思いました。キリストにあって、私たちは世界を超えて一つとされています。それを実感した時でした。どうか、このような時だからこそ、私たちはお互いにキリストにあって救われ、一つとされていることを感謝し、神様を褒めたたえ、お互いに励ましのメッセージを送りあいましょう。

神様のみこころである救い

救い 神様の御心がなされた 5, 9, 10, 11

選び 4, 5, 11

神の恵みがほめたたえられるため 6, 12

キリストにあって 3, 5, 7, 9, 10, 11

御国を受け継ぐ者 11

キリストにあって一つとされる 10-11